

そっ たく

啐啄

平成28年1月1日刊行 No.9
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
Tel.04992-2-1453
題字「井島 吉春」

2学期のあれこれ

教育委員長 白井 良平

☆『秋の教育相談会』

これは、今年度から教育委員会主催で始まった特別支援教育巡回事業の第2回目として、11月16日に行われた相談会です。小中学校の児童・生徒とその保護者及び教師の希望者を対象にして、医師・心理士・教育相談員・SSW（スクールソーシャルワーカー）・指導主事が教育についての様々な相談を受けました。それなりの成果があったと自負してはいますが、さらに充実すべく努力して参ります。次回は1月18日に行われます。

☆縁の下の力持ち

予定日が雨にたたられ、次週の予備日前日もまた雨だった『町レク』。翌日を中止にすると今年度は無しという状況に追い込まれました。その時のスポーツ推進委員の皆さんや町職員などの開催に向けての意欲と努力には、頭の下がる思いがしました。前日からつばき小のグラウンド全面にブルーシートを敷き詰め、当日の朝は5時からグラウンド整備やライン引きを行って、開催にこぎつけたのです。イベントを楽しむ陰には、必ずこういった見えない力が働いていることを、特に子供たちには知って欲しいものです。

☆『錦魚葉椿（きんぎょばつばき）』

これは椿の一種ですが、私は大島高校の椿園で初めて目にしました。葉っぱをよく見るとその先が3つに分かれ、まるでランチュウの尾ビシのようです。校長先生のお話によると、大島の椿を世界に知ってもらうために、都立大島公園と椿花ガーデン、それに大島高校が連携して国際的な機関に認定してもらうための活動を行っているそうです。そのこと自体が素晴らしい取り組みですが、私がさらに感動したのが「農林科の生徒が外国からのお客様に、椿園を歩きながら英語で説明していたこと」と「茶道部が淹れてくれたお茶」です。お客様はそれらを堪能し、大島高校の特徴とその優しさを認識して下さったようです。傍で見ていると、とても誇らしく嬉しいひとときでした。



活字と手書き文字

教育委員長職務代理者 井島 吉春

文字は本来手で書くものであり時代と共に発展していった。現代ではパソコンやメールの普及により、かなり手書きしなくても済むようになったが、しかしまだ手書きが必要な場面も多い。いざ書いてみて、あれ、どうだったかなあと迷う人は辞書などで調べてその通りに書くだらうが、実は正しいとは限らない。なぜならば活字体と実際の手書き文字とは、かなりの相違があるからだ。

活字体は手書きの毛筆体の楷書を基に印刷文字としてデザインし発達したものであるため、活字体を手本にして書くことには無理なことが多く当然書きにくい。とめるのか、はねるのか、つけるのか、はなすのか、だすのか、ださないのか、ながいのか、みじかいのか等普段活字しか目にしない人達にとって悩むところだと思う。また、字によっていろいろな許容体があり必ずしもひとつの形とは

限らない。筆順についても現在学校で教えているものは、あくまでも筆順の中のひとつにすぎず字によっては何通りかの筆順も存在する。このことは文科省（文部省時代から）も「筆順指導の手びき」「改定常用漢字表」などに示されている。説明しだしたらきりがないのでここでは省略する。

長い間字を書くことに関わってきてしばしば毛筆書きを依頼されるが、その依頼主が活字にとらわれていて困ってしまうことが最近よくある。手書きだとこう書くのだと説明してもなかなか理解してくれず、依頼主はその漢字が大好きでこだわりのある人程納得してくれない。たぶん辞書でその漢字を調べてきたと思うのだが、こちらとしては変な字は書きたくない。これもパソコン、メール等による文字環境の変化のため、文字に対する理解度の表れなのであろうか。

漢字は中国から伝わり日本の中で消化し、その後日本独自の文字仮名が生まれた。日本の歴史は漢字と仮名によって手書き文字で伝えられ今日に至り、世界に誇ることのできる文化として花開いた。このすばらしい日本の伝統文化を後世に残したいと切に願っているのだが、パソコン、メールの便利さとどう共存してゆくのか。

一度すたれてしまったものを復活することほど難しいものはない。もしかすると外国人の方が日本の文化に深い興味を持っているかもしれない。

走る

教育委員 藤田 月

新しい年を又、迎えました。

今年も申年、私も昭和31年生まれの申年、ちょうど60歳の還暦を迎える年となりました。とうとう、来るべき年が来たなという感じですよ。

さて、数年前から始めたランニングですが今年も継続して時間がある限り走っていこうと目標を立てています。60kgを超えていた体重も50kg前半まで落とすことができ、普段の日常生活も非常に体が軽くて楽になりました。たまに会う人からは随分痩せたねと言われます。毎日は無理ですが仕事帰りに筆島やトウシキの方を30分位、休みの日は、畑の周りを45分から60分位ゆっくりと走っています。

その日の体調で体が軽くいつまでも走れそうな日もあればすごく息が荒く辛い日もあります。夏、汗びっしょりになって帰って来ると家内曰く又、「無駄な汗をかいてきたね」と言われます。

96歳で亡くなった私の父も80歳位まで走っていたらどうか、今はなくなってしまった読売新聞社主催のパブリックマラソンに参加していました。別に父の意志を継いだわけではないのだが、よく父は「人生はマラソンだ」と酒を飲んで酔っ払うと言っていました。父なりに走ることの哲学があったのだろう。

夢はいつしか3人の息子たちと42.195K（フルマラソン）を走りたいと思っていますが私の体力は段々と低下し、息子たちは日々忙しくなりどうも実現しそうにありません。

今回も当初の原稿締め切りの日まで間に合わず、教育の事務担当の方にはご迷惑をお掛けしました。



給食試食会2

教育委員 岡山 日出子

11月、何度目かの給食試食会に参加させていただきました。平成27年4月から給食が民間に委託になりましたが、実際に献立をたて、調理をしてくださっている方たちはほとんど変わらず、内容もバランスの摂れたメニューの中でできるだけ大島産を使い美味しく楽しく、という気持ちが伝わってくるものでした。

この日の献立は、ご飯、かき玉汁、ごま鯖の柚子味噌かけ、切り干し大根サラダ、大島牛乳。中でもごま鯖は、波浮で捕れたもので、現地で骨をとり除き、切り身にしてから運ばれてきたものだそうです。味噌煮ならお馴染みですが柚子味噌をかけてというのは初めてで、同じく自分では作ったことがない切り干し大根サラダとともにワクワクしながらいただきました。どれもとてもおいしかったです。

『味覚というのは幼少期の食生活が影響する』と聞いたことがあり、私自身もなるべく色々な食材をいろんな味付けでと心がけていた時期がありました。しかし、家庭料理やたまの外食では限界もあり、このように自分では作ったことがない献立が給食で出されていると思うと嬉しくなります。

某食品メーカーのコマーシャルで「あなたは、あなたの食べたものでできている」というコピーがありました。子どもたちは成長し、料理を作る側になり、また大島を離れて生活することもあるでしょう。その時には是非、家庭の味とともに大島の給食を思い出して欲しいと思います。

ご馳走さまでした。

新年のご挨拶に代えて

教育長 石川 龍治

皆様明けましておめでとう御座います。この一年が皆様にとって、最良の年となることを願っております。

さて、大島町教育委員会では昨年9月に「大島町学力向上推進委員会」を立ち上げすでに取り組を始めたところです。これを実効性のあるものにするためには、学校だけでなく保護者、地域の人びと、行政が連携し取り組まなければならないと思います。

また、大島の歴史文化に興味を持って頂きたいと思っています。大島出身の樋口秀司氏の「伊豆諸島を知る事典」で調べると、縄文時代の遺跡から出土したオオツタノハガイの貝輪に抱くことの出来るロマン。源為朝や日忌様にまつわる伝説。流刑については日本書紀29巻に初めて登場したのが675年で以来江戸時代まで続いていました。その中にはエンノ行者、赤穂浪士遺子もいました。宮沢賢治をはじめ多くの文人墨客の来島した足跡も残っています、藤井工房の藤井虎雄氏によると画家だけで200名以上いるそうです。薬師堂から昭和32年発見された、東京都指定の有形文化財である仏像をはじめ、その他から発見された数々の古文書なども存在します。多発した自殺者の霊を慰めるために、三原山登山道の旧五合目付近に残る御地藏さまや中村不折揮毫の石柱、木村武山作線刻地藏尊が建立されています。まだまだ沢山のことが載っていますがここでは紹介し切れません。

故郷に愛着をもてる教育を目指し、日本人としてのアイデンティティーを持ったグローバル人材（文科省の定義では「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティーを持ちながら、広い視野にたって培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識を持った人間」）の育成には必要な要素だと思います。

大島町の児童生徒の学力向上へ

大島町教育委員会では、平成27年度から大島町学力向上推進委員会を立ち上げ、大島町の学力に関する課題について現状把握をおこない28年度本格的に動き始めます。

具体的には、学校、家庭、地域の三者における学力向上のための取り組みを考え、実施します。大島町としては、以下のように学力向上を考えています。

大島町が児童生徒に必要と考える学力とは

大島町教育委員会は、大島町の児童・生徒が郷土大島を愛しつつ、「夢」の実現を求め人として成長するうえで欠かせぬ学力を以下のとおりとする。以下について義務教育において着実な定着を図り、社会的自立を果たすことができる能力の基盤を全員が身に付けることを目標とする。

- 1 大島町として必要と考える知識・技能の確実な定着。
- 2 大島町の考える望ましい生活習慣の定着。
- 3 学び続ける態度や課題に粘り強く取り組む力。

この「学力」を向上させるために、文部科学省が学習指導要領で示しているとおり、学力の両輪となる「基礎的・基本的な知識の定着」と「思考力・判断力・表現力の向上」、また、現在の18才にして島に残るか進学のために内地に行くかを選ばなければならないという大島町としての課題を受け、「社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力の定着」を目指します。

具体的な活動として、本委員会のもと、5つの分科会を設置し、それぞれテーマを決めて学力向上に向けた取り組みを検討し、実践していきます。

◎大島町として目指す授業を目標として取り組みます。現在までそれぞれの学校で盛んに行っている学力向上のための研究をもちより、大島町としての授業の在り方、望ましい学習姿勢等の検討をしていきます。各校では、「まなブックの作成」、「学びの手引書の活用」、「言語活動の充実」「望ましい学習規律の検討」「授業のユニバーサルデザイン化」など、それぞれ望ましい授業の在り方について研究しております。

◎大島町としての望ましい生活習慣を考え、学校・保護者とともに生活習慣の改善や家庭学習の充実について、ともに取り組みます。これまでもさまざまな取り組みがされていますが、なかなか子供たちの生活習慣の改善は難しいのが現状です。

大島町として子供たちの健全育成について考えて、ともに取り組みます。

◎授業時間の質・量の向上について検討してまいります。各校で工夫している放課後学習等の取組についての情報交換や学校行事への取り組み方、町行事への取り組み方について等、学力向上との関連から望ましい在り方を検討していきます。

◎大島町の子供たちに確実に身に付けさせたい学習内容を再度構築します。

小中の先生方が一緒に考えることのできる、大島町ならではの「大島町立小中学校教育研究会」の中で、体系的な学習内容を構築するとともに、高等学校を卒業すると同時に一人で生活していくことができるようにするために、小中学校では何を教えなければいけないのかについて、もう一度考え、小中の系統を意識した指導内容を作成していきます。

目標について。

1 大島町として必要と考える知識・技能の確実な定着。

基礎的・基本的な知識・技能は、子供たちが将来進学や職業を選択する際には、まさに基礎的・基本的な力になります。入学検査などでは見える学力となります。狭い意味での学力ともいわれることがありますが、これも大切な学力です。この学力を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力等の向上を図り、基礎・基本を活用する力を育成します。

- ・大島町授業スタイルの策定をします。
- ・大島町学習スタンダードの策定をします。

2 大島町の考える望ましい生活習慣の定着。

素晴らしい自然の中で健やかに育っている子供たちですが、日常生活におけるデジタル機器の使用についてなど一つ見ても、子供たちの生活環境は大きく変化しています。大島でのより良い生活に向けての生活習慣の改善と家庭学習の充実を図ります。

- ・大島町生活習慣スタンダードを策定します。

3 学び続ける態度や課題に粘り強く取り組む力。

子供たちの運動・文化的行事における取り組みや継続力などについては、これまでの取り組みで一定の成果がでています。今後とも工夫・改善を図ります。学習においては、子供の実態や指導内容等に応じて様々な工夫を行うことにより、「わかる授業」を行い、子供たちの学習意欲を高めることが、学力を育む上でもとりわけ重要です。また、学校と家庭とが連携しながら学習習慣を身に付けさせることが、生涯を通じて主体的に学び続けることのできる学習意欲を持つことにもつながります。

その意欲を態度や取り組みにつなげる、耐える力と継続する力の育成を目指します。



大島町学力向上推進委員会
会長 山田 三正

つばき小学校

副校長 河津 力



昨年11月24日（火）から28日（土）までは「学校公開週間」でした。期間中は、通常の授業参観だけではなく、東京都言語能力向上拠点校の取組として、2年前から取り組んできた「言語活動の充実を図る授業」などについて公開しました。また、11月27日（金）には、3、4年生

が「総合的な学習の時間」に、元町明治会の方々にお手伝いをいただきながら、「貝細作り体験」学習を行いました。

クダッチにお住まいの植松さん(波浮港 朝栄丸 御夫妻)をゲストティーチャーに迎え、アワビやトコブシ、夜光貝等の貝殻を使ったキーホルダー作りについて教えていただきました。子供たちも明治会の方々も、何



十分もかけて貝殻を磨くことがとても大変だったようですが、磨くほどに美しく輝き出す貝殻に、互いに感動や励ましの声を掛け合って、さらに一生懸命に磨いていました。

今年度も、あと3ヶ月となりましたが、保護者や地域の皆様方の御支援と御協力により、子供たちの教育活動の充実を図ることができています。今後とも、どうかよろしくお願いたします。



さくら小学校 ～ 子どもたちの話し合いと実践で創り出すよりよい学校生活 ～

副校長 山室 誠也

本校には、「廊下を歩く」「使ったボールを片付ける」など、できて当たり前のことできていない残念な現状がありました。

そこで、代表委員会の子どもたちが、各学年で「さくら小の課題と改善策」について話し合ってもらい、本校の課題改善に取り組み始めました。自分たちの学校生活を自分たちの力でよりよくしたいという子どもたちの思いから発生した取組です。学びの主体性がぐんぐん育まれています。

12月は、♡ チャレンジ ろう下歩行運動 ～思いやりの歩き方～♡ です。



《玄関ホールにある掲示》

一日、右側通行を守り、歩いて生活できた人は、自分の名前が入った♡カードを貼ることができます。



《廊下に立つポスター》

つつじ小学校

つつじ小学校では、「毎日更新！」を目標にホームページ・ブログの充実に取り組んでいます。ブログコーナーでは、子どもたちの生き生きとした活動をみなさんに伝えられるように、写真選びや文章等を工夫しています。ぜひご覧ください。



つつじ小学校ホームページ

<http://town.oshima.tokyo.jp/~tsuts>



毎日更新！つつじブログ

<http://tublog.exblog.jp/>



つつじ小ホームページ



毎日更新！つつじブログ

「第一中学校の避難訓練・防災訓練」

平成25年の台風26号の影響による土砂災害から2年がたちました。この災害の教訓を生かすために第一中学校では避難訓練の見直し、改善と防災対策を進めています。

避難訓練は火災・地震・噴火について学校内の様々な状況を設定して実施しています。年に数回は生徒が散らばっている状況で、かつ生徒へは訓練について事前に知らせない等可能な限り実践に役に立つ方法で実施しています。

一方、防災訓練では、今年度東京都の建設局の調査で本校が土砂災害特別警戒区域（いわゆるレッドゾーン）に指定され、防災対策を根本から見直しています。9月19日（土）には初めて生徒の引き渡し訓練を実施しました。保護者の方々も協力して下さい30件を超える貴重な意見をいただきました。その多くが車両の動線という課題でした。他にも様々な課題を見つけることができました。さらに対策を重ねて改善に努めてゆきたいと思っておりますのでご意見等を本校までお寄せ下さい。

（一中副校長松島2-2366）

第二中学校地域研究発表会

11月21日、「温故知新」～私たちがつくる大島の明日～を統一テーマとして、第33回地域研究発表会を行いました。発表会当日は157人の来場者があり、事後アンケートでは沢山の励ましのお言葉を頂きました。また島内の多くの方々には、インタビューやアンケートをはじめ様々な場面でご協力を賜り、お礼申し上げます。

第33回 地域研究発表会



温故知新～私たちがつくる大島の明日～

大島町立第二中学校

平成27年11月21日（土） 場所：二中体育館

各班の研究テーマ

1年生

「大島の伝説」

「探れ！Sightseeing in Oshima」

「大島の戦争」

「大島の安全」～災害と事故～

2年生

「大島の方言」

「海の生物～In Oshima～」

「大島の炭」

「大島の風景」～花と空～

3年生

「大島の特産物」～ふるさと納税の可能性～

「大島の過去と未来」

「クワガタ」

「大島と草木染め」

学
校
の
取
組
（
中
学
校
）

第三中学校では、毎年文化祭で各学年の劇を保護者及び地域の皆様をお招きして発表しております。

1年生「すばらしいコーラ」



2年生「まごころサンタカンパニー」

3年生「桃太郎 たからとは」



町駅伝大会で優勝した男子は、都駅伝大会に出場し、全員が自己ベストを更新し、目標を大きく上回る45位という成績を残しました。



町駅伝大会

都駅伝大会

教育委員会カレンダー 1月～3月

月	日	内 容	場 所
1	9	成人式	大島町開発総合センター
2	6	大島町体育祭野球大会（小学生の部） 予備日 2月7日（日）・13日（土）	差木地地域センターグラウンド
	13	柔剣道大会（予定）	都立大島海洋国際高等学校
	21	大島町文化祭（芸能大会）	大島町開発総合センター
3	4	大島町文化祭（作品展）（3月4日～6日）	大島町開発総合センター

事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p>○連合音楽会 昨年12月8日（火）第一中学校体育館で「第30回大島町小中学校連合音楽会」を開催しました。ご来場ありがとうございました。</p>  <p>○連合作品展 1月15日（金）から19日（火）の午前9時から午後4時30分（19日は午後3時）まで、つばき小学校体育館にて「第19回大島町小中学校連合作品展」を開催します。是非ご来場下さい。</p>	<p>昨年11月14日（土）に東京都スポーツ文化事業団主催のもと大島町将棋教室を開催しました。昼の部は小中学生を中心に41人、夜の部は大人を中心に12人が参加しました。将棋のルールを教えてもらったり、プロ棋士と真剣勝負をしたりと将棋を大いに楽しみました。</p> 
給食センター係	図書館
<p>現在給食センターでは、食物アレルギーに関して可能な限りの対応を行っております。今年の3月に文部科学省から「学校給食における食物アレルギー対応指針」という通達があり、その中には「食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する」と明記されております。今後、都栄養士協力のもと町独自の学校給食食物アレルギーマニュアルを作成し、食物アレルギーを有する児童生徒の保護者、学校、給食センターにおいて面談の機会を持ち、情報共有等を行い、より安全で美味しい給食が提供出来るよう努めてまいります。</p> 	<p>10月31日（土）に社会福祉協議会主催の福祉まつりに移動図書館車「ひまわり号」が参加しました。本の貸出と除籍本のバザーを実施いたしました。売上金は本の購入費などに充てさせていただきます。</p> <p>また、ひまわり号ではボランティアの募集をしております。内容は本の貸出作業、車の運転（普通免許運転できます）、本の登録作業等で第1・3・4土曜日に運行しています。興味のある方はひまわり号事務局（大島図書館）までご連絡下さい。</p> <p>☎04992-2-2392（月曜休館日）</p> 

※啐啄（そったく）とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたく音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツつき破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教える側の先生と教わる側の生徒が、啐啄同時である事が理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名づけました。